

松濤だより

第十二号

令和2年
7月20日 行
発

令和2年度 入舍式

～コロナ禍でようやく挙行～



理事長より入舍許可を
受ける新入生

六月十四日（日）、午後5時より学舎食堂において本年度の入舍式が挙行された。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2カ月遅れの入舍式になりました。太田洸陽君以下4名（1名は帰省中の新入生に対し、碇理事長より入舍許可書が手渡された。そして「コロナ禍で一変した状況の中、心身共に健康で過ごしてほしい。心の健康は、自己と他者を互いに大事にすることをベースに、人の話をしっかりと聞いて自他を知り、長所を見つけて『自他を活かす』ことで、ストレスも減り勇気づけられる。学舎生活の中で成長、活躍してほしい。」と祝辞があつた。

新入生を代表して、太田君より「上京後、この寮のお陰で、2カ月間バランスの取れた食事や体を動かすことも出来た。オンライン授業で学友とは会えないが、先輩や友人と会話も出来た。これから、学生として様々な経験を積み、心身共にバランスの取れた学生生活を送りたい」と思つてい

化に接して様々な経験を積みながら成長していく大学生を描いた夏目漱石の『三四郎』の紹介と、このようないいと言葉をいただいた。

また、大坪舍友会会长からは、長年



小野寮長の歓迎の辞
あることを体験してほしい。
この松濤学舎で、一緒に頑張りたい。
と歓迎の言葉があつた。

ここから料理を囲んで祝賀会が始まるところなのだが、感染防止のために池尻理事のご発声で乾杯のみとなる。引き続き、松濤学舎OBの百武舍友会事務局長より「29年前、入寮した。その寮生活を通して学んだ4つのことを入寮時には云うことにしてい

る。(1)朝ご飯を食べる。(2)1日、1回は大学へ行く。(3)終電までに帰つてくる。(4)留年しない程度に学生生活を楽しむ。自肃で大学に行けない状態が続いているが、健康な生活を過ごしてほしい。自分は今の疫病時代を考えると、正に逆境であるが、その中でもチャンスがあると考え、情報収集にも勤しんで欲しい。人は居るだけでは価値がない。競争相手があり、激動の時代であるが、テレビ会議を通して遠隔地でも仕事が出来る。コロナ禍でさらに加速すると思うが、ネットワークを利用し情報収集し、海外の新聞に目を通し、グローバル化に注視していくべきである。これから、2・3・4年と頑

溝口評議員会議長より、読書歴の中から「田舎から上京する途中での女性との出会いいや都会（東京）の生活や文

があるので、十ヵ月で様々な経験を積むことが出来ることを見つける。何か集中で達成感が

張つていつて欲しい」と激励の言葉をいただいた。今年は例年行われていた新入生のパフォーマンスや出身高校の校歌披露は中止となつたが、新入生の元気な自己紹介は頼もしく、清々しかつた。



元気に自己紹介する
新入生

最後に光野理事から、「卒寮生の中には、大坪会長の様にメディアを通じて社会で活躍している先輩がいることも知つて、4年間、充実した学生生活を送つてほしい」と締めの言葉をいただき閉会となつた。今年はコロナ禍のため、オードブル料理を囲んでの賑やかな会食ができず、閉会後にソーシャルディスタンスを取つて弁当での静かな会食となり、残念だつた。かつてない状況下ですが、学舎生活で、先輩の薰陶や仲間との切磋琢磨の中で、逞しく成長してくれるものと期待しています。フレッシュな新入生を含めて今年度の寮生は、29名となりました。



学舎行事

四月	新入生オリエンテーション
五月	理事長面接（新入寮生5名）
六月	入舎式（14日）
七月	夏季休業（11～20日）
八月	佐賀県人会（4日）
九月	舍内講演会
十月	就活のための社会勉強会
十一月	冬季休業（27～5日）
十二月	退舎式

学生自治会行事

四月	オンライン授業開始
五月	山手線一周（中止）
六月	野川清掃ボランティア（中止）
七月	スポーツ大会（バーベキュー会）
八月	「今後の予定」
九月	寮祭（前期納会・一泊旅行）
十月	後期寮長選挙
十一月	東京唐津供日（久敬社塾・中止）
十二月	スポーツ大会
一月	忘年会・大掃除
二月	次年度前期寮長選挙
三月	後期納会

コロナ禍での生活体験記

新型コロナウイルス感染拡大により4月早々に出された緊急事態宣言で、寮生達は各大学で入学式やサークル活動などが中止、通学もできない巣ごもりの生活を余儀なくされた。それは、前期終了の7月まで続いているが、一人の感染者も出さずに不自由な自粛生活を何とか乗り越えて頑張つてゐる、小野寮長以下7人にその体験記を綴つてもらつた。

「自粛期間」

3年 寮長 小野 起

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大学も早々にオンライン講義へと移行し、寮で多くの時間を過ごすことになりました。幸いにもオンライン講義ではほとんど問題なく受講することができ、少なくとも座学に関しては対面形式で受講するのと学修内容は変わらないように感じました。

自粛生活で気づいたことは主に満員電車の苦しさと料理の楽しさです。やはり朝の通勤通学ラッシュというものは常態化しても苦しいもので、今学期は自室で悠々と授業の開始を待つことができるのですが、そういう点ではオンライン講義は非常に有益なもので、実験を行つことが一番の醍醐味だとしました。（秋冬学期のハードルが相対的に上がつてしまふことが億劫ではあります。）私は、恥ずかしながら松濤学舎に入

「コロナ期間中の大学生活」

3年 副寮長 泉 清久

今回コロナの影響で最も印象に残つたことは大学の授業がリモートで行われたことです。リモート授業が始まつた当初は、キャンパスに行かずして授業が受けられ、朝の満員電車に乗らなくて済むのでいいなと思つていました。しかし、実験科目が始まると不便だなと思うことが増えました。まず、実験を行つことができず先生方が作られた動画を視聴することで実験が進められました。やはり実験は実際にを行うことが一番の醍醐味だと思つたです。また、実験のレポートでは大学の図書室にある本ばかりだつ

察してからというものの、料理は滅多にしませんでした。しかし、実家から食材が送られてきたりと様々な要因が重なつて積極的に自炊するようになります。普段は簡素なものしか作らないのですが、時間のあるときには友人と唐揚げを作るなど、少し手間のかかる料理に挑戦したりしています。

たのですが、大学に行けなかつたのでその代わりとなるものをネットから探す必要があつたので大変でした。このように不便なことも多かつたですが、Excel や MATLAB でグラフを作るなど今まであまりしたことのないことに挑戦することも増え、とても充実した生活を送ることができました。



入寮時、新入生と先輩生の挨拶交流風景

「コロナ禍の家の遊び方」
4年 松瀬 勝朗

コロナで外に遊びに行けない時のパソコンの遊び方にも色々あるが、今回はダウンロードしたゲームで遊ぶことをメインに、利用するサイトは「steam」というゲーム販売サイトから次のオススメのゲームを紹介しよう。

① Sid Meier's Civilization シリーズ
② Total War: Rome II
③ Civilization VI
④ Civilization: Beyond Earth
⑤ Civilization: Beyond Earth - Rising Tide
⑥ Civilization: Beyond Earth - Heir to the Past

【6】が出ていて、私は【5】を235時間と人类史を生き抜いていく。シリーズは【5】

② Undertale—RPC 良質な音楽、どことか懐かしいグラフィック、そして心温まるストリーーその全てが絡み合い、独特の作品世界を作り上げている。とにかくまずネタバレなしで遊んでみてほしい。

③ 東宝 Project シリーズ／弾幕シユーティングゲーム。難易度は少々高めだが、その分クリアした時の達成感は高い。また、音楽が非常に評価されてる作品。シリーズで複数本あるが初心者向けでオススメは「東方風神錄」

「コロナ禍での精神的余裕」
4年 橋本 潟平

4月に入つてすぐに緊急事態宣言が発令され、まず初めに辛いと感じたのはやはり外に出られないことでした。後輩として新一年生が入舎してきた。1・2週間が経ち、それなりに親睦が深まつたところだったので、その後輩たちを食事や遊びに連れて行こうかと考えていた矢先に宣言が出てしまい、非常に残念でした。ただ、自分たちが寮に住んでいるメリットとしてコロナ期間中でも他の在寮生と共にスポーツができたので、自肃期間なりに後輩との交流もできなおかげで得たものもある。それは寮生とのつながりだ。

「コロナウイルスのせい」
1年 桑原 健伸

私の大学は後期もオンラインが決定した。このような事態になつたのも全部コロナウイルスのせいだ。現在の生活は、私が想像していたキャンパスライフケースとは全く違、パソコンに向かって授業に励んでいた日々だ。入試以来大学にも行つたことがないような状況である。友達もSNS上でしかできず、会おうにも会えない状況が続いている。非常にしんどい。

コロナウイルスによつて失つたものは大きいが、それのおかげで得たものもある。それは寮生とのつながりだ。先輩や同級生が常に寮にいるので、ご飯に連れて行ってくださつたり、一緒にゲームをしたりでき、例年以上に仲

線一周や野川ボランティア清掃などが中止になつたことも残念でしたが、寮の共同生活の中で交流がより深まり、なんとかこの3か月間を乗り切ることができました。未だコロナウイルスの感染は収まっていますが、「この調子で寮生と一緒に乗り切つていこう」と思っています。

が深まつた。ここでのつながりは、非常に貴重なものだと思う。

大学がオンラインなのは本当につらかったと思う。今後は、今の自分でできることを考え、この自肃期間を有意義なものにしたい。

「自肃で感じたこと」

1年 原 桃太朗

私は3月の終わり、新型コロナウイルスが蔓延し始めた頃、寮に来た。そこから緊急事態宣言が発令され、なかなか外出が厳しい状況になつた。そんな中、寮生活で本当によかつたと思つたことがある。まず、頼ることができる人が身近にいるという点である。先輩方は皆さん本当に優しく、テニスコートでサッカーをしたり、ご飯に連れて行つてくださつたり、お風呂でお話ししたりした。そして、寮のご飯はどのメニューも美味しく、それを楽しみに自肃生活を送ることができた。辛かつたことは、大学の授業がオンラインになつたことである。大学に行くことができず、会おうにも会えない状況が続いている。非常にしんどい。

コロナウイルスによつて失つたものも大きいが、それのおかげで得たものもある。それは寮生とのつながりだ。寮生活も早や3ヶ月がたち、コロナも初期の頃よりは落ち着いてきて実に鬱になるような生活を送つていい。これからの大學生生活がどうなるかわからず、不安はつきないが、精一杯頑張つていこうと思う。

